



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第二一〇号〜

雨水うすい

二月十九日

## ロゼット

二月も半ば、春の兆しを見つけるとうれしくなります。

風光りすなはちもののみな光る 鷹羽狩行

吹く風も、その風に吹かれているものも光っているように見える。「風光る」の季語にはわくわく感があります。

風だけではありません。冬枯れの地面にも緑がちらほら目につくようになりました。

下萌したもえて土中に楽がくのおこりたる 星野立子

さまざまな草木の芽生えは、まるで音楽が生まれるようだという俳人の感性が光ります。なるほど、地面にはさまざまな草が寒い中にもしっかりと根を降ろしています。なかでも、地面に張り付くように葉を広げている草をよく見かけます。これを「ロゼット」というそうです。女性のドレスを飾るバラの形をしたブローチに似ていることから名付けられました。この形であるとは、寒風を避けながらも、陽射しをいっぱい浴びることができ、効率的。そのため、多くの草がこの形をして越冬するようです。

『雑草手帳』によれば、このロゼットは冬の寒さを避けるだけでなく、種子で越冬した他の植物に比べ、冬の間蓄えた光合成の栄養分によって、いち早く花を咲かせることができます。

つまり寒い冬は種子で土中に過ごした方が安全ではあるけれど、ロゼットを作る植物は、冬は耐える季節ではなく、しっかりと栄養分を蓄える期間にしているのです。

春先、ほかに先駆けて萌えはじめ、ぐんぐんと育ち花を咲かせる雑草は、冬に葉を広げていたものに限られます。「下萌え」の早い遅いの違いは、厳しい冬の過ごし方によるものなのです。厳しい時にこそ、力を蓄える「ロゼット」、私たち人間へのメッセージのようでもあります。

文 千種清美

